



くいは杉材で作り、長さ約2mの棒状。直径約3cmの穴を30カ所以上開け、トウガラシの成分を染み込ませた栓を打ち込んでいます。



「木」でできることの可能性を
広げたい」と
熊谷さん

クマ被害軽減へ! におい発する木製“くい”を開発

株式会社ウッディさんない

〒019-1108 秋田県横手市山内字土渕字小目倉沢34-8 TEL.0182-53-2600 FAX.0182-53-2700
<https://www.woodyssannai.jp/>

間伐材と天然材料でクマ対策を!

近年増加傾向にある、ツキノワグマによる人や農作物への被害を防ごうと、横手市山内の「ウッディさんない」と秋田県立大学木材高度加工研究所が共同で、クマが忌避する木製くいを開発した。

「森林や登山道に設置してある木製の案内板や標柱が、クマに齧られてしまうという相談を受けたのがきっかけでした」と語るのは林業技師の熊谷誠喜さん。開発した木製くいは、杉の間伐材を用いた約2mの丸い支柱。ツキノワグマが犬並みの嗅覚を持つことに着目し、クマが嫌がるカプサイシン(トウガラシ成分)を染み込ませた木の栓が複数打ち込まれている。開発にあたっては、2018年に活性化センターのファンド事業を活用した。

「ファンドを活用することで、試作や実証実験の幅が広がりました。詳細なデータを取得しながら研究開発を進めることで、商品化に向けて製品の完成度を高めていくことができました」。

人と動物のすみ分けに期待

約2年の開発期間をかけて、トウガラシのほか、ミント、ウルフピー(狼の尿)、ワサビ、柿渋などの成分と、噛みつかれにくい木材の形状や太さなどを検証した。県内3か所で野生のクマをカメラでモニターし、さらに大森山動物園の協力を得ながらデータを積み重ね、最も効果的な条件を絞り込んでいった。

昨年、クマによる食害があった果樹園に試作品を実験的に設置したところ、製品を避けた形跡が残っており、同園の被害軽減に繋がっている。

「クマは学習能力が高い生物。人間との生息域を分けることで、不幸な事故を無くしたい」と熊谷さん。現在は、特許を出願し、本格的な販売に向け、実証実験と改良を重ねている段階だ。既に県内外から、クマ以外の害獣への有用性についても問い合わせがきており、可能性は広がる。人と動物、互いに適切な距離を保つための“木製くい”。同社の活躍に今後も期待したい。

活用事例

あきた農商工応援ファンド【助成金】

中小企業者等と農林漁業者が連携して取り組む県産農林水産物を活用した新商品や新サービスの開発、およびその販路開拓などの取り組みを支援します。

お問い合わせ

設備・研究推進課 TEL.018-860-5702